

古代・戦国時代の山城を訪ねて①

3月2日からの日課、行動そして古代山城の旅へ

大西清見

今年の2月に入って、日本国内でも新型コロナウイルスの感染が広がり、その拡散と医療対策が深刻に危惧され始めました。さらに新型コロナウイルスの感染拡大を受け、安倍総理大臣は3月2日から全国すべての小・中学校、それに高校などについて、春休みに入るまで臨時休校とするよう要請する考えを示しました。私の勤務する私立高校も3月2日から休校となり、専任教師は出勤するのですが、非常勤講師は自宅待機となりました。

非常勤講師の私は、突然の3月2日からの一か月以上の時間をどう過ごすか、というちょっとした個人的な問題を考えることになりました。こんな時こそ、コロナウイルスに対しては科学的に医学的にとらえて対処し、冷静に行動していこうと考えました。家に閉じこもって溜まっていた本を読んでいくことも良いのですが、それに加えてよりコロナウイルス対策として、より安全な空間へ積極的に出かけるのも一つのストレス打開策だと思いました。

まず考えたのは朝の日課としてウォーキングとラジオ体操を始めました。毎朝、午前5時45分の南海電車に乗って羽衣から二駅目の諏訪ノ森駅へ、諏訪ノ森から浜公園を南下して歩きます。公園の中間点で6時30分のラジオ体操に参加します。ラジオ体操の参加者は高石市内の方で約50名、その大半は中高年の女性でみんなノーマスクでコロナのことはすっかり忘れてしまいます。ラジオ体操を終えて更に南の高石漁港を経て7時半頃に帰宅するというウォーキングが定着しました。このウォーキングを始めて三週間、心身ともに体調は良好です。

次に、こんな時だからこそ、コロナウイルス感染者ゼロの岡山県に行くことに(3月20日)。目的地は総社市の吉備鬼ノ城(きびきのじょう)、昨年のNHKの「ブラタモリ」でも放映された今も人気の古代山城です。鬼ノ城への期待度はあまりなかったのですが、行ってみてびっくり、歴史的にも地形的にも百点満点の山城でした。この城は史書にまったくなく記載がない謎の城ですが、桃太郎伝説の痕跡もみられる以上に、出土遺物から7世紀に築城された堅固な古代山城であることが分かりました。しかし、鬼ノ城は、いつ、誰が、どのような目的で築城したのかは、依然謎に包まれたままです。

主峰の鬼城山(約400m)は、吉備高原の最南端に位置し、さらに南へは総社平野・瀬戸内海へと続きます。吉備高原と総社平野の境目が崖のような地形になっているため、鬼城山は広く平らな山頂部分と険しい斜面からなっています。城壁は山頂部分と斜面の境目に築かれ、全周は約2.8kmという壮大さです。

この城壁に沿って全周を約2時間で歩くことができます。この日の一番の見どころは、山上に復元された西門(写真左)と東端の屏風折れの石垣(写真右)でした。正門はほぼ完全状態で発見された門道に復元され、その威容から鬼ノ城の

シンボルになっています。また、城壁は至る所に石垣で築かれていますが、特に屏風折れの石垣は、大きく城外へ張り出しており、広い視野を利用した、城の東側方向への監視ができるという工夫がみられるようです。古代山城の雰囲気がみられ、いつまでも眺めていたい空間でした。

この日はハイカーでいっぱい、大人から子供まで楽しそうに歩いていました。しかも、大半がノーマスクでコロナウイルスのことをすっかり忘れてしまうほどの和やかな一日でした。また、次回は歴史も地形もしっかり予習をして鬼ノ城に行ってみたいものです。



復元された西門、鬼ノ城のシンボルのよう



城外側に鋭く張り出した屏風折れの石垣

編集後記

新型コロナウイルスの感染が拡大するイタリアで、休校となった高校の校長が、今の世界の様子を17世紀に流行したペストによる混乱になぞらえ、デマなどに振り回される風潮に警鐘を鳴らした全校生徒へのメッセージが話題となっています。なかでも次のメッセージが私の心に残っていました。「せっかくの休みだから散歩をしたり、良質な本を読んで下さい。合理的な思考で私たちの貴重な財産である人間性と社会を守っていきましょう。では近いうちに学校でみなさんを待っています」。イタリアも日本も世界も、本当の春が早く来てほしいものです。(大西)

今月も各会より会報を送っていただきました。

安治川山の会ニュース(安治川山の会)、やまなかま(泉州労山)、きたろうニュース(きたろうHC)、にしよど(西淀労山)、ぼんぼん山(高槻)、福岡県連通信、労山おかやま、やまと友の会、京都労山、噴煙(鹿児島労山)、兵庫労山会報、県連ニュース(和歌山労山)

発行日 2020年(令和2年)3月23日 No.410

編集・発行 入澤、大西秀、笠井、園、高橋、中井、中尾、大西清
